

人文社会科学専攻 カリキュラム・ポリシー

■人文科学研究コース

【教育内容】

人間学・地域文化・言語文化をテーマとするコース主専攻科目を中心に、幅広い学識と高度な専門知識の涵養を図る多様な授業科目の履修を保証するとともに、修士論文作成のための研究指導を行う。

【教育方法】

(科目履修)

人間学・地域文化・言語文化の多様な科目の履修を可能にしつつ、とくに地域の諸問題については全学生が学びうる共通授業を実施することで、高度な専門的知識の修得ならびに高度な論理的思考力・総合的表現力の涵養を図る。

(研究指導)

複数指導教員制の下で、基礎的研究技法の習得から修士論文作成に至る一貫した研究指導を行う。

【教育評価】

(学修評価)

学修評価にあたっては、本学が定める成績評価基準に基づいて評価を行う。各科目の学修成果は、授業科目の到達目標の達成度をシラバスに記載されている評価方法によって、筆記試験、レポート、発表、授業への参加度、演習等で評価を行う。

また、修士論文の評価については、本専攻の論文審査規定に基づいて評価を行う。学位の授与にあたっては、学位授与の方針に基づき、論文審査（課題設定、先行研究の検討、適切な研究方法、独創性、研究倫理の履行等の観点からの評価）、関連科目の到達度評価、最終試験（筆記あるいは口述）により総合的に評価する。

(カリキュラム評価)

学生の学修成果や専門領域の研究動向、学外からの評価・意見を参照しつつ、6年毎にカリキュラム評価を実施し、改善を行う。

■グローバル社会研究コース

【教育内容】

「グローバル化」を軸としたコース主専攻科目を中心に、幅広い学識と高度な専門知識の涵養を図る多様な授業科目の履修を保証するとともに、修士論文作成のための研究指導を行う。

【教育方法】

(科目履修)

「グローバル化」をテーマとする多様な科目の履修を可能にしつつ、とくに地域の諸問

題については全学生が学びうる共通授業を実施することで、高度な専門的知識の修得ならびに高度な論理的思考力・総合的表現力の涵養を図る。

(研究指導)

複数指導教員制の下で、基礎的研究技法の習得から修士論文作成に至る一貫した研究指導を行う。

【教育評価】

(学修評価)

学修評価にあたっては、本学が定める成績評価基準に基づいて評価を行う。各科目の学修成果は、授業科目の到達目標の達成度をシラバスに記載されている評価方法によって、筆記試験、レポート、発表、授業への参加度、演習等で評価を行う。

また、修士論文の評価については、本専攻の論文審査規定に基づいて評価を行う。学位の授与にあたっては、学位授与の方針に基づき、論文審査（課題設定、先行研究の検討、適切な研究方法、独創性、研究倫理の履行等の観点からの評価）、関連科目の到達度評価、最終試験（筆記あるいは口述）により総合的に評価する。

(カリキュラム評価)

学生の学修成果や専門領域の研究動向、学外からの評価・意見を参照しつつ、6年毎にカリキュラム評価を実施し、改善を行う。

■ 社会科学研究コース

【教育内容】

社会科学の3領域を軸としたコース主専攻科目を中心に、幅広い学識と高度な専門知識の涵養を図る多様な授業科目の履修を保證するとともに、修士論文作成のための研究指導を行う。

【教育方法】

(科目履修)

経済学・経営学・法学の多様な科目の履修を可能にしつつ、とくに地域の諸問題については全学生が学びうる共通授業を実施することで、高度な専門的知識の修得ならびに高度な論理的思考力・総合的表現力の涵養を図る。

(研究指導)

複数指導教員制の下で、基礎的研究技法の習得から修士論文作成に至る一貫した研究指導を行う。

【教育評価】

(学修評価)

学修評価にあたっては、本学が定める成績評価基準に基づいて評価を行う。各科目の学修成果は、授業科目の到達目標の達成度をシラバスに記載されている評価方法によって、筆記試験、レポート、発表、授業への参加度、演習等で評価を行う。

また、修士論文の評価については、本専攻の論文審査規定に基づいて評価を行う。学位の授与にあたっては、学位授与の方針に基づき、論文審査（課題設定、先行研究の検討、適切な研究方法、独創性、研究倫理の履行等の観点からの評価）、関連科目の到達度評価、最終試験（筆記あるいは口述）により総合的に評価する。

（カリキュラム評価）

学生の学修成果や専門領域の研究動向、学外からの評価・意見を参照しつつ、6年毎にカリキュラム評価を実施し、改善を行う。